

宇都宮市

歴史文化基本構想

『みんなでつなぐ 歴史文化の息づく交流都市 宇都宮』

～郷土の歴史を理解し、誇りをもって守り・活かし、みんなの力で未来につなごう～



宇都宮市

1 歴史文化基本構想とは

構想策定の背景

宇都宮市は、二荒山神社の門前町・宇都宮城の城下町として栄え、大谷石採石産業の営みによる独特な景観、農村部に残る天棚や屋台など、多様な文化が息づいているまちです。

一方、北関東最大の中核市として50万人を超える人口を有し都市化が進む中、こうした伝統文化や郷土の歴史への市民の関心が希薄になりつつあることが懸念されています。本市の歴史文化の魅力を市民全体で共有し、貴重なものとして保存するだけでなく、市民が主体となって積極的に活用することで、歴史文化資源を守り、継承につなげていく持続的な取組が求められています。

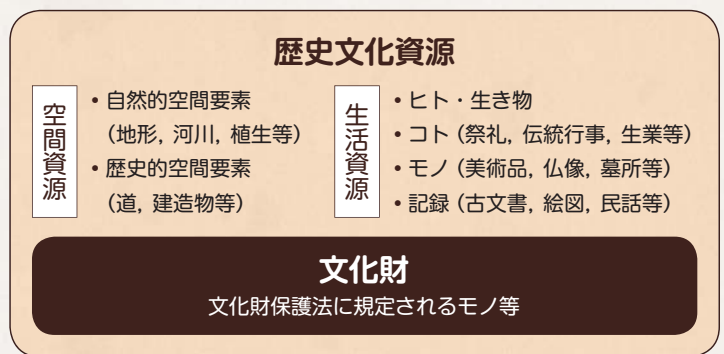
歴史文化基本構想とは

「歴史文化基本構想」とは、市域に所在する歴史文化資源を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉え、その周辺環境まで含めて、総合的に保存・活用するための考え方や方針をまとめたものです。この構想は、将来にわたり、地域固有の歴史文化を守るとともに、これらを活かした人づくりやまちづくりの取組を進めていくための指針となります。

歴史文化資源とは

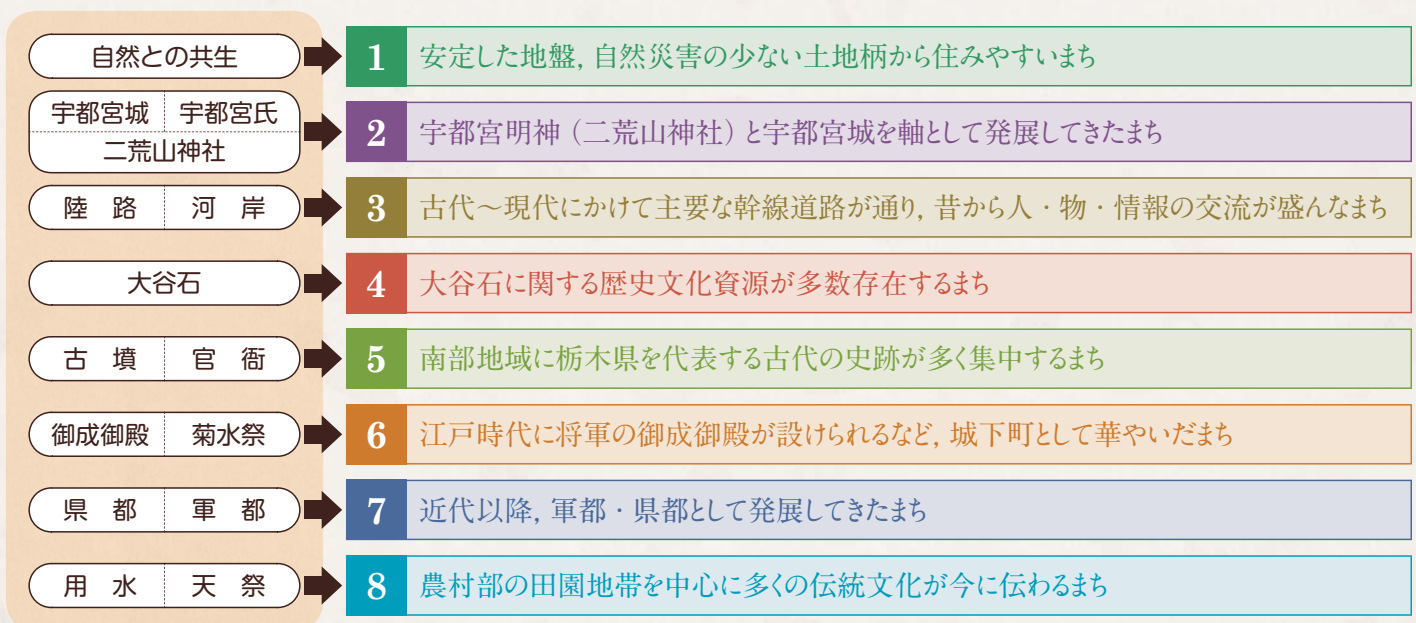
本市では、指定・登録を受けた「文化財」だけでなく、身近な生活の中で市民が大切にしているものを「歴史文化資源」として幅広く捉えています。

地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成されてきたモノやヒト、コトで、市民共有の価値を有するもの



2 宇都宮市の歴史文化の特性

文献調査や市民ワークショップを通じて、本市の歴史文化資源を総合的に把握したところ、次のようなキーワードが抽出され、これを踏まえ宇都宮市の歴史文化の特性を整理しました。




3 関連文化財群「うつのみやの歴史を紐解く8ストーリー」^{エト}

本市の歴史文化の特性を魅力的な形でわかりやすく伝えるために、「うつのみやの歴史を紐解く8ストーリー」を作成しました。この8ストーリーは、学校教育や生涯学習、観光やまちづくり、図書館や美術館などで積極的に活用されることによって、多くの市民が本市の歴史文化への関心を高めるとともに、市外への発信にもつながることが期待されます。

	古代	中世	近世	近代	現代
ゼネラルストーリー	〈1〉今も昔も住みやすい関東平野の里山都市 うつのみや				
時代を貫くストーリー	〈2〉文武に秀でた宇都宮氏の本拠地 うつのみや				
	〈3〉2つの街道の追分、水運の鬼怒川 人・物・情報の交流拠点 うつのみや				
時代の特徴を表すストーリー	〈4〉古代から現代まで 大谷石がつくり繋いだ石のまち うつのみや				
	〈5〉古代国家を支えた下毛野氏 基盤の地 うつのみや		〈6〉徳川将軍も泊まった華やかな 城下町 うつのみや		
	〈7〉二度の戦災をたくましく生き抜いたまち うつのみや				
	〈8〉農村に生きた人々が築いた文化豊かな田園の地 うつのみや				

1 今も昔も住みやすい関東平野の里山都市 うつのみや

 なぜ、うつのみやには、
今も昔もたくさんの人が集まってくるの？

日本最大の面積を誇る関東平野の北端に位置するこの地は、都市の文化と多様な自然が入り交じり、豊かな自然の恵みを育むとともに、多様な文化が会い新たな文化を生み出してきました。

南北に流れる幾筋もの川に挟まれた安定した台地を生活の場とし、すでに4～3万年前には人が住み始め、古代・中世・近世へと時代が進むにつれ人々は集まり、更に近代に県庁が置かれ、より多くの人々が集住し、今日まで県の中核を担ってきました。現在約50万人の暮らす「中核市宇都宮」は、災害が少なく水資源にも恵まれ、安心して暮らせるまちです。




▲宇都宮市街地空撮



▲市内で発見された4～3万年前の落し穴跡

▲根古谷台遺跡

2 文武に秀でた宇都宮氏の本拠地 うつのみや

 百人一首ゆかりの宇都宮氏とは、
どんな一族だったの？

宇都宮は宇都宮明神（二荒山神社）の門前町として始まり、この神社の社務職^{※1}を兼ね、この地を治めていた宇都宮氏は文武に秀でた武将でした。5代頼綱は、藤原定家に京都の山荘の襖に貼る色紙和歌の選定を頼み、後の「百人一首」のものととなりました。8代貞綱は、蒙古襲来を迎え撃つ日本軍の総大将として九州に出陣し、9代公綱は「坂東一の弓矢とり」と謳われ、10代氏綱は2か国の守護職を務めましたが、22代国綱の代に豊臣秀吉により改易^{※2}されました。その後、宇都宮氏の旧臣たちは土着し地域の発展を支え、宇都宮氏が種をまいた「百人一首」は現代に引き継がれ、多くの人々に愛されています。



宇都宮頼綱
(運生)



▲二荒山神社

▲紙本墨書新式和歌集

(※1) 社務職…神社の事務全般をつかさどった神職の長。 (※2) 改易…領地を没収し、大名をとりつぶすこと。

3 2つの街道の追分、水運の鬼怒川 人・物・情報の交流拠点 うつのみや



なぜ、うつのみやは多くの人が
行き交うまちなの？

宇都宮には古代の「東山道^{とうさんどう}」、中世の「奥大道^{おくのだいどう}」が通り、近世には「日光道中^{にっこうどうちゅう}・奥州道中^{おうしゅうどうちゅう}」の2つの街道が分岐する追分の地となって、徳川将軍や参勤交代の大名の宿場として賑わいました。近代以降は「国道4号線」が通り、常に国の中枢部と東北を結ぶ主要幹線が通る陸上交通の要衝の地でした。

近世になると鬼怒川沿いに河岸がつくられ、下野諸藩や会津藩等の年貢米を江戸に送るなど、水上輸送の重要な役割も果たしました。明治期には早くから鉄道が開通するなど、街道や河川、鉄道を通じて、宇都宮はいつの時代にも人・物・情報が行き交い、新しい文化を受け入れ、常に変化しながら発展してきたまちです。



▲「日光道中分間延絵図」(5巻之4) 宇都宮宿



▲智賀都神社のケヤキ

▲白沢宿

4 古代から現代まで 大谷石がつくり繋いだ石のまち うつのみや



なぜ、このまちの人々は
大谷石を使い続けているの？

大谷石は宇都宮の人々にとって古より身近に触れることができる存在でした。この地に住む人々は、その石質の特質を見抜き、^{たてあな} 竪穴住居のカマドや古墳の石室材として使ったほか、石山に^{まがいぶつ} 磨崖仏を彫り、人々の^{あんねい} 安寧を願いました。江戸時代以降、長年の採掘により掘り残された石切場と、自然の^{きがんぐん} 奇岩群との人工と自然が織りなす固有の景観が今に残っています。

近代では、フランク・ロイド・ライトが旧帝国ホテルの建材として使用するなど、加工がしやすく、耐火性に優れた石材であることから、高度成長期には東京・横浜に大量に出荷され、近代化する日本の都市の形成を支えました。



▲大谷資料館(カネイリヤマ採石場他)



▲大谷観音

▲カトリック松が峰教会

5 古代国家を支えた下毛野氏基盤の地 うつのみや



なぜ、この地に
古代河内郡の役所がつけられたの？

古墳文化がもたらされて以来、この地には多くの古墳が造られました。その中でも注目されるのが市内最大の^{ささづか} 笹塚古墳で、近くには豪族の^{きょかん} 居館跡や同時代の集落跡も発見されています。

二荒山神社の主祭神^{とよきりひこのみこと} 豊城入彦命は、^{にんとく} 仁徳天皇の時代(5世紀)に^{しもつけぬのくにのみやつこ} 下毛野国造に任ぜられたという伝承もあり、同じ時代に築造された^{しもつけぬし} 笹塚古墳と下毛野氏に関するかもしれないことが想像されます。子孫である^{しもつけぬのこまろ} 下毛野古麻呂は、国の根幹となる大宝律令の作成に携わり、都において活躍しました。古代の河内郡は、この下毛野氏が基盤とした地であり、河内郡の役所と考えられる^{かみこうぬし} 上神主・^{もばらかんがいせき} 茂原官衙遺跡は、宇都宮市と上三川町の境にあります。



▲上神主・茂原官衙遺跡



▲笹塚古墳

▲長岡百穴古墳

6 徳川将軍も泊まった華やかな城下町 うつのみや



どうして宇都宮城に 徳川将軍が泊まったの？

宇都宮城は、将軍が日光社参る際に泊まった城で、合計19回も将軍家が宿泊しています。この宿泊に絡んだ有名な話が『宇都宮釣り天井』伝説で、本多正純が将軍の暗殺を企てたとする講談は今日まで語り継がれています。

近世の頃の宇都宮城は、伊達政宗など外様大名に対する押さえの城として代々譜代大名が入封^{※3}する軍事・交通上の重要拠点でした。本多正純は、宇都宮城と城下の整備を行い、今もその町割りが生かされています。当時の城下には約1万人が暮らし、二荒山神社の菊水祭付祭では屋台や山車などがくり出され大いに賑わいました。近年、市民の手により火焰太鼓山車が復活されるなど、今もそのDNAは引き継がれています。



▲宇都宮御城内外絵図



▲宇都宮城跡



▲伝馬町屋台

7 二度の戦災をたくましく生き抜いたまち うつのみや



うつのみやが巻き込まれた 二度の戦争ってなに？

一度目は、1868年に勃発した戊辰戦争^{ぼしん}で、宇都宮藩は新政府側につき、町は戦火に包まれました。その後1884年に県庁が栃木町より移転し、名実共に県の政治・経済の中心となりました。日露戦争後には陸軍第14師団の宇都宮移駐が決定し、市内各所に軍の関連施設がつけられました。

二度目は、太平洋戦争末期に米軍機により空襲を受け、市街地の大半が焼失しました。しかし、市民の強いエネルギーにより復興が進められ、この空襲で黒こげになった旭町の大いちょうが迎春芽吹き、復興のシンボルとして人々の心の支えとなりました。終戦後、第14師団の中国からの帰還兵が本場の餃子を持ち帰り、宇都宮餃子のルーツとなりました。



▲宇都宮空襲により焼失した市街地



▲八幡山の特殊地下壕



▲旭町の大いちょう

8 農村に生きた人々が築いた文化豊かな田園の地 うつのみや



どのようにして豊かな田園風景は 育まれてきたの？

江戸時代の初め、宝木台地は、水はけの良い地質のため稲作に適さない土地でしたが、江戸時代の終わりの頃に「宝木用水」が完成し、21万坪の水田が宝木台地に広がりました。現在でもこの用水は農業用として一部が使われているほか、雨水を処理する排水路等、市民に身近な川として今も流れ続けています。

宇都宮市の田園地帯では、「五穀豊穡」や「疫病退散」を願い、天祭^{てんさい}^{※4}や獅子舞^{ししまい}などの伝統行事が行われてきました。これらの行事は、地域の人々の結びつきを強め、地域の一体感を生み出し、今日まで引き継がれています。



▲天下一関白神獅子舞



▲羽黒山神社・梵天祭り



▲二宮堰

(※3) 入封…土地を与えられた大名がその領地に入ること。 (※4) 天祭…太陽や月などの自然信仰に基づく祭礼。

4 保存活用の方針

歴史文化資源を良好な状態で「保存」することを前提としながらも、積極的な「活用」を通じて、保存にかかる体制・基盤が整備され、それがまた活用につながるという持続的なサイクルを目指し、本市の歴史文化資源を将来にわたり総合的に保存活用していくための方針を次のように定めました。

基本理念

『みんなでつなぐ 歴史文化の息づく交流都市 宇都宮』 ～郷土の歴史を理解し、誇りをもって守り・活かし、みんなの力で未来につなごう～

多様な主体が、日常的な活動のなかで歴史文化の保存活用に関わり、みんながそれぞれの立場で歴史文化資源の保存活用に取り組むことにより、活力と魅力が続くまちの実現を目指します。

基本方針

基本方針1 歴史文化資源の価値を調べる、引き出す、守り伝える

体系的に本市の歴史文化を調査研究し、適切な保存管理を担う人材や体制の専門性を高め、所有者への助言・支援や保存環境の充実を図ります。

- (1) 調査・研究の充実（価値の創出）
- (2) 文化財指定・認定・登録制度の適正な運用
- (3) 適切な保存管理基準の設定

基本方針2 歴史文化の魅力を学ぶ、知る、地域振興に活かす

より多くの市民や来訪者に対し、本市の歴史文化の魅力を発信し、触れる機会を増やすことで、理解促進と、郷土の誇りや愛着の醸成を図ります。

- (1) 学校教育・生涯学習と連携した学ぶ機会の拡大
- (2) 歴史文化資源の公開促進及び魅力発信の強化
- (3) 地域振興等での活用の推進

基本方針3 保存活用の多様な主体の参画を促進する

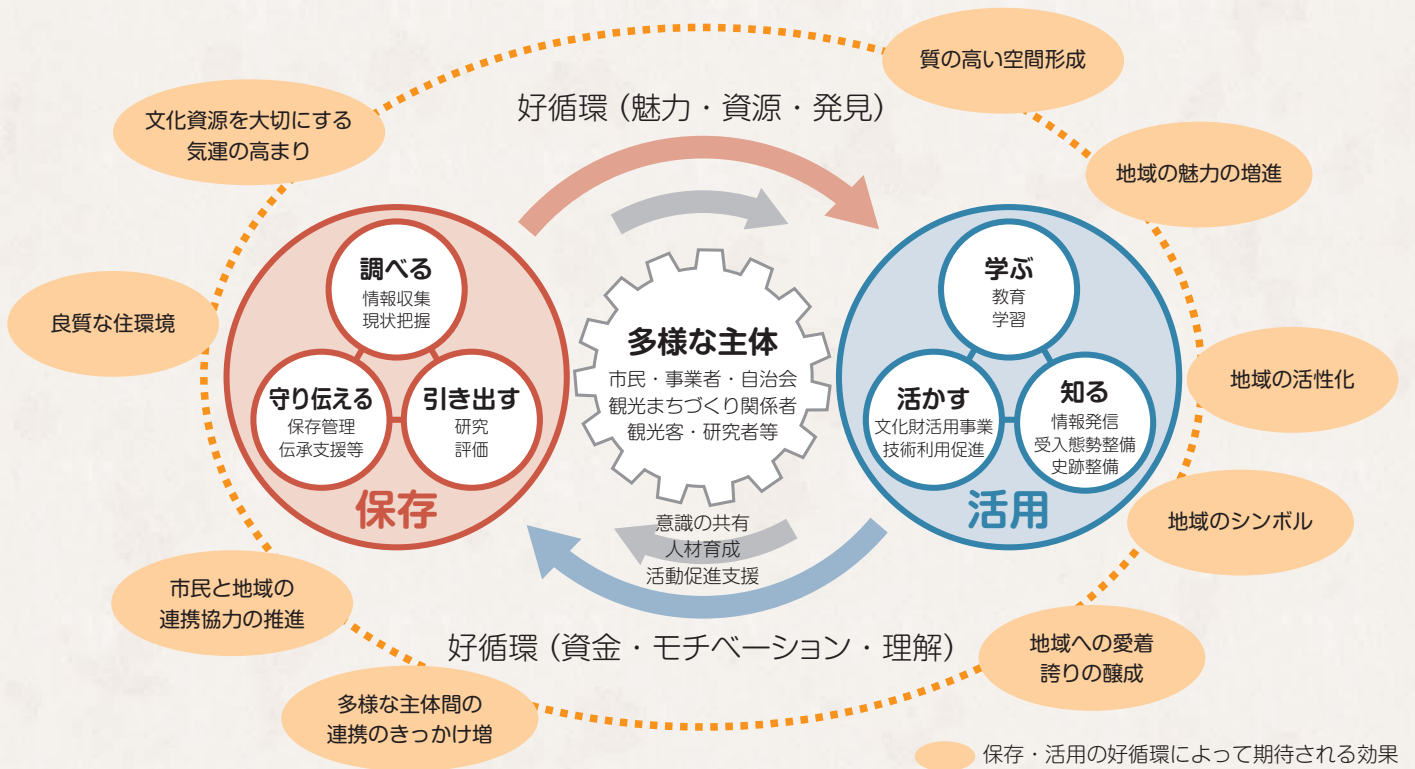
多様な立場にある市民や企業、団体等が歴史文化に関わりを持ち、社会全体で歴史文化資源を守り、活用していく好循環を生み出す仕組みを構築します。

- (1) 歴史文化に興味を持つきっかけづくりの推進
- (2) 主体の育成及び活性化と人材の育成
- (3) 多様な主体に応じた多様な参画手法の提供
- (4) 地域の歴史文化の魅力を高める支援体制の構築



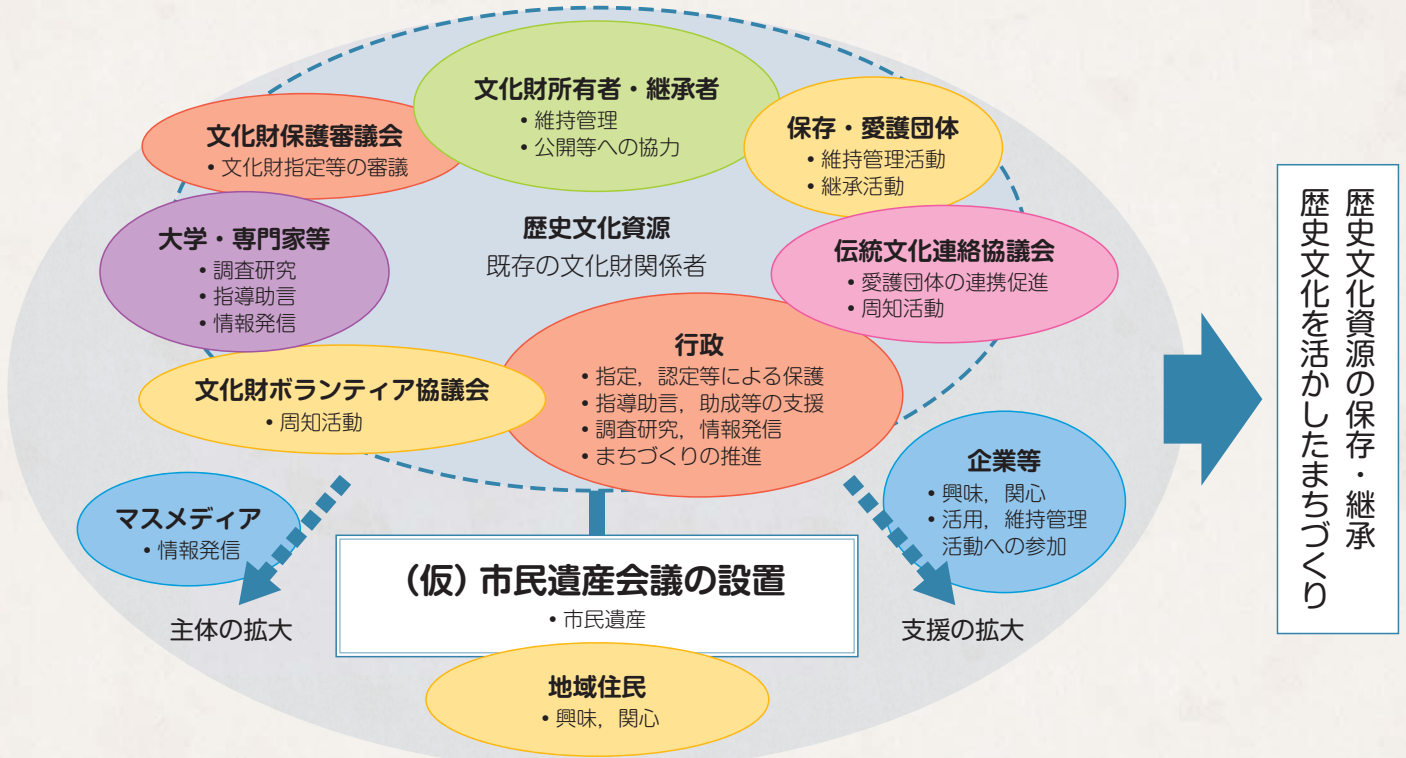
多様な主体による保存活用の実現

多くの歴史文化資源は、これまでその所有者を中心に保存活用が進められてきましたが、人口減少・少子高齢化など社会環境が変化するなかで、これからは所有者のほか、多くの主体がそれぞれの立場で保存活用に関わり、都市全体で歴史文化を保存活用していくことが望まれます。



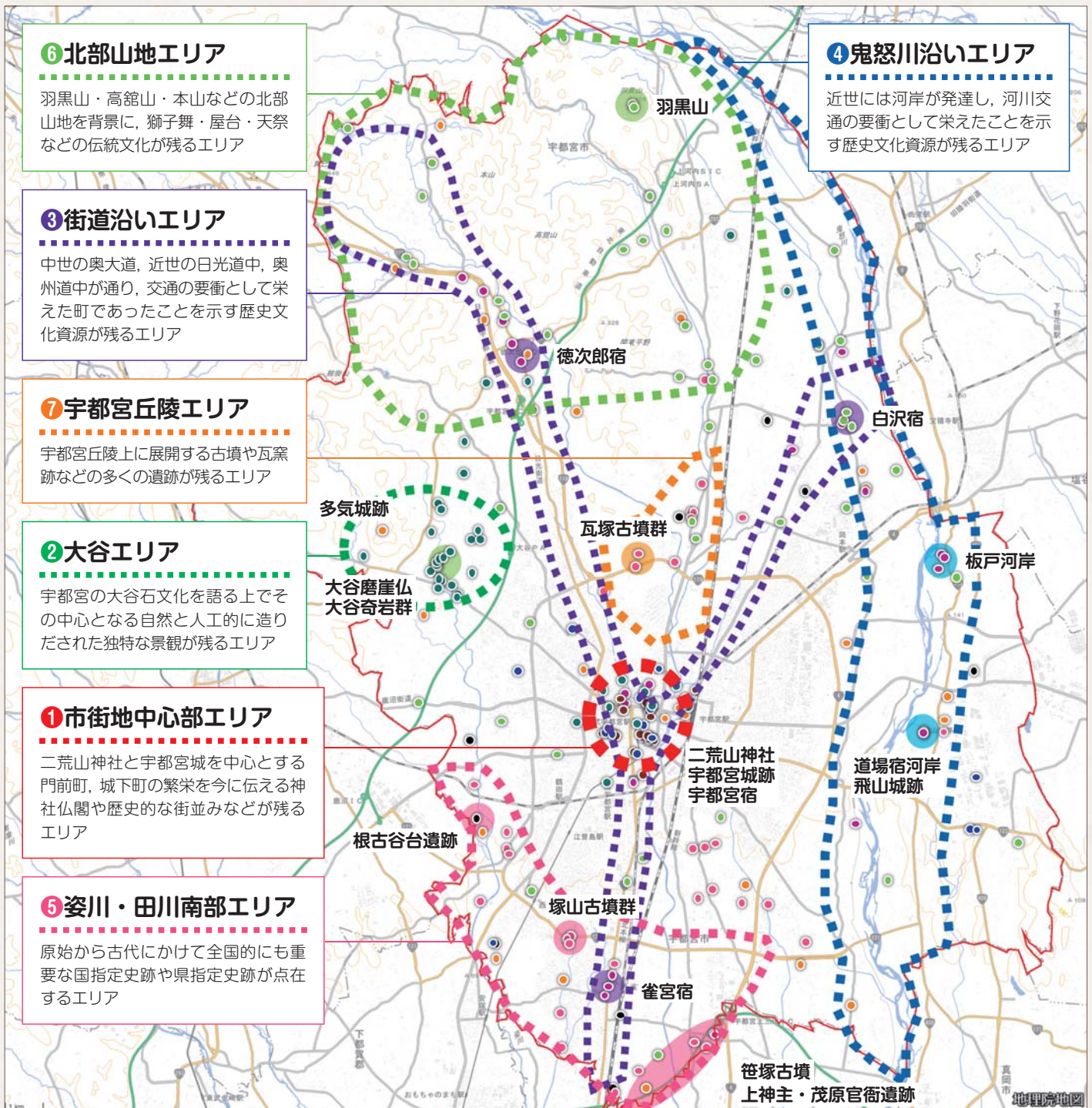
実現に向けた今後の整備方針

実現にあたっては、市民各層の代表者により構成する市民組織「(仮称)市民遺産会議」の設置を検討し、既存の文化財関係者に加え、地域や企業なども含め広範な連携体制を構築し、歴史文化資源の保存・活用を社会全体で支える仕組みづくりを目指します。



5 歴史文化保存活用区域

歴史文化資源（群）を核として文化的な空間を作り出すためのエリアを7つ設定しました。それぞれのエリアにおいて周辺環境を含め、歴史文化資源の一体的な保存活用を図ります。



6 北部山地エリア

羽黒山・高館山・本山などの北部山地を背景に、獅子舞・屋台・天祭などの伝統文化が残るエリア

3 街道沿いエリア

中世の奥大道、近世の日光道中、奥州道中が通り、交通の要衝として栄えた町であったことを示す歴史文化資源が残るエリア

7 宇都宮丘陵エリア

宇都宮丘陵上に展開する古墳や瓦窯跡などの多くの遺跡が残るエリア

2 大谷エリア

宇都宮の大谷石文化を語る上でその中心となる自然と人工的に造りだされた独特な景観が残るエリア

1 市街地中心部エリア

二荒山神社と宇都宮城を中心とする門前町、城下町の繁栄を今に伝える神社仏閣や歴史的な街並みなどが残るエリア

5 姿川・田川南部エリア

原始から古代にかけて全国的にも重要な国指定史跡や県指定史跡が点在するエリア

4 鬼怒川沿いエリア

近世には河岸が発達し、河川交通の要衝として栄えたことを示す歴史文化資源が残るエリア

- ①今も昔も住みやすい関東平野の里山都市 うつのみや
- ②文武に秀でた宇都宮氏の本拠地 うつのみや
- ③2つの街道の追分、水運の鬼怒川 人・物・情報の交流拠点 うつのみや
- ④古代から現代まで 大谷石がつくり繫いだ石のまち うつのみや
- ⑤古代国家を支えた下毛野氏基盤の地 うつのみや
- ⑥徳川将軍も泊まった華やかな城下町 うつのみや
- ⑦二度の戦災をたくましく生き抜いたまち うつのみや
- ⑧農村に生きた人々が築いた文化豊かな田園の地 うつのみや

宇都宮市歴史文化基本構想【概要版】

発行日 : 平成30年3月
 編集・発行 : 宇都宮市教育委員会事務局文化課
 〒320-8540 栃木県宇都宮市旭1丁目1番5号
 電話 028-632-2766 / FAX 028-632-2765
 メール u4607@city.utsunomiya.tochigi.jp